

topics 「国勢調査」からみた由布市の就業者数

今年4月、5年に1度実施されている国勢調査の2015年分について就業状態等基本集計結果が公表されました。今回は、この調査結果をもとに由布市の就業者数の状況等をお知らせします。

1. 就業者数の推移と特徴

由布市の2015年の就業者総数は、下の図表のとおり16,339人でした。前回調査の2010年は16,405人でしたので、5年間で0.4%（66人）減少しています。同期間に大分県全体では0.8%減少しており、由布市の就業者数の減少は大分県平均に比べて緩やかです。

産業（3部門）別の内訳をみると、第2次産業で大幅に減少しています。業種別では、「製造業」や「卸売業、小売業」で減少する一方、高齢化の進展などから「医療、福祉」で増加しています。

なお、就業者数の構成比について大分県平均と比較すると、第2次産業（とくに「製造業」）が低く、第3次産業（とくに「宿泊業、飲食サービス業」）が高くなっています。前回お伝えしたとおり、由布市には年間約300万人もの人が国内外から訪れており、「宿泊業、飲食サービス業」での就業者が多い要因となっています。

2. 生産年齢人口の減少とその影響

先ほどもしましたように、由布市の就業者総数は2010年から2015年の5年間で0.4%減と小幅減少しましたが、今後はどうなるでしょうか。国立社会保障・人口問題研究所が公表した『日本の地域別将来推計人口』では、2015年からの10年間で由布市の総人口は7.7%減少し、なかでも15歳以上65歳未満の人口である生産年齢人口は同期間に11.9%減少すると推計しています。

労働力の中核である生産年齢人口の減少が進むと、従業員の確保が難しくなってきます。近年、有効求人倍率は全国・県内ともに高水準で推移しており、大銀経済経営研究所が今年1月に実施した県内の企業向けアンケートでは、回答した企業296社のうち6割超が人手不足を感じています。

女性や高齢者の就労などが進むことで、生産年齢人口の減少による影響はある程度緩和されますが、今後も有効求人倍率は高水準で推移することが予想されます。

このため、働きやすい環境づくりなど従業員を確保し定着させるための取り組みや、生産性を向上させるための取り組みがより重要になってくると考えられます。

図表 由布市の就業者数

	就業者数（人）			構成比（%）		
	由布市		大分県	由布市		大分県
	2010年	2015年	2015年	2010年	2015年	2015年
総数	16,405	16,339	546,167	100.0	100.0	100.0
第1次産業	1,513	1,427	36,475	9.2	8.7	6.7
農業	1,430	1,350	31,401	8.7	8.3	5.7
林業	71	67	1,743	0.4	0.4	0.3
漁業	12	10	3,331	0.1	0.1	0.6
第2次産業	2,617	2,300	121,915	16.0	14.1	22.3
鉱業、採石業、砂利採取業	8	8	693	0.0	0.0	0.1
建設業	1,314	1,188	46,376	8.0	7.3	8.5
製造業	1,295	1,104	74,846	7.9	6.8	13.7
第3次産業	12,192	12,045	363,361	74.3	73.7	66.5
運輸業、郵便業	655	573	22,678	4.0	3.5	4.2
卸売業、小売業	2,473	2,262	82,577	15.1	13.8	15.1
金融業、保険業	221	192	11,116	1.3	1.2	2.0
学術研究、専門・技術サービス業	252	280	13,288	1.5	1.7	2.4
宿泊業、飲食サービス業	1,914	1,847	32,424	11.7	11.3	5.9
生活関連サービス業、娯楽業	601	583	18,777	3.7	3.6	3.4
教育、学習支援業	750	679	24,137	4.6	4.2	4.4
医療、福祉	2,710	2,902	83,380	16.5	17.8	15.3
その他のサービス業	1,356	1,408	52,141	8.3	8.6	9.5
公務（他に分類されるものを除く）	1,260	1,319	22,843	7.7	8.1	4.2
分類不能の産業	83	567	24,416	0.5	3.5	4.5

※構成比については、四捨五入の関係で合計が一致しないことがあります
資料）総務省「国勢調査」